

Course Title	日本美術史	Instructor(s)	林忠賢 Chunghsien LIN
		E-mail	clin@miu.ac.jp
Class Style	講義、文献購読	Office Hours	To be announced
Track		Mode of Instruction	単独
Credits	2	Allocated Year	2 nd , 2026 Spring
Active Learning	2-(3)Presentations and Reverse Presentations 3-(2) Pause for Reflection 4-(2) Facilitated Discussions 4-(3) Free Discussions 4-(9) Group Work on Questions 5-(1) Cooperative Student Projects	Compulsory or Elective	Elective
Course Overview	本授業では、日本における「美術」の成立とその背景について学ぶものである。前半では、日本近代において「美術」という概念がどのように形成され、「日本美術」がどのように位置づけられてきたのかを考察する。後半では project-based learning を通して、学生がキュレーターの視点から作品を選び、日本美術の意味を再解釈する。		
Course Objectives	1. 日本美術の成立過程およびその歴史的背景について理解することである。 2. 日本語の「美術」、「アート」と英語の “art” という三つの概念の違いを区別し、説明できるようになることである。 3. 日本美術の作品を分析し、キュレーターの視点から日本美術の意味や文脈を考察できるようになることである。		
Prerequisite			
Course Schedule	No	Contents	Homework
	1	オリエンテーション：授業の目的と「美術」という概念について	自己紹介および日本美術に関する関心テーマの整理
	2	「美術」とは何か：art / 美術 / アートの概念の違い	講義内容の復習および関連文献の講読
	3	近代以前の視覚文化：日本における絵画・工芸・宗教美術の背景	講義内容の復習および関連文献の講読
	4	明治期と「美術」の誕生：西洋概念の導入と制度の形成	講義内容の復習および関連文献の講読
	5	万国博覧会と日本美術の再編成について	講義内容の復習および関連文献の講読
	6	日本画・洋画の成立と近代美術の枠組み	講義内容の復習および関連文献の講読
	7	近代における「日本美術」の形成の事例	講義内容の復習および関連文献の講読
	8	調整回：授業内容の補足やディスカッションを行う	講義内容の復習および関連文献の講読
	9	日本美術の再解釈：キュレーションの基本概念	プロジェクトの準備
	10	キュレーションと展示の考え方について	プロジェクトの準備

	11	プロジェクト準備：テーマ設定と作品選定	プロジェクトの制作
	12	プロジェクト制作：展示コンセプトを具体化	プロジェクトの制作
	13	プロジェクト制作：発表準備と内容の整理	発表の準備
	14	期末発表	発表の準備
	15	期末発表および振り返り	発表の準備および振り返り
Grading	<p>文献購読の発表：20% プロジェクト制作：50% 課題：30% 3回を超えて欠席した場合、成績評価の対象外となる。</p>		
Textbooks	授業の中で適宜指示		
References	<p>辻惟雄（2021）『日本美術の歴史 補訂版』東京大学出版会 高階秀爾（2009）『増補 日本美術を見る眼 東と西の出会い』岩波書店 北澤憲昭（1989/新版 2020）『眼の神殿：「美術」受容史ノート』ちくま学芸文庫 佐藤道信（1996）『〈日本美術〉の誕生：近代日本の「ことば」と戦略』講談社</p>		
NOTES	<p>使用言語は日本語であるため、留学生の場合はN2以上の日本語能力を有すること。 また、講義のほか講読形式の授業も行うため、日本語で文献を読み議論できることが望ましい。</p>		